

2024年12月18日

国内の鉄道会社初！アサヒ飲料「CO₂を食べる自販機」で回収したCO₂吸収材を配合したケーブルトラフを導入しました

京王電鉄株式会社（本社：東京都多摩市、取締役社長：都村 智史）では、アサヒ飲料株式会社（本社：東京都墨田区、代表取締役社長：米女 太一、以下「アサヒ飲料」）とともに、新宿駅および府中駅にアサヒ飲料の「CO₂を食べる自販機」を設置しています。今回回収したCO₂吸収材を配合したコンクリート製ケーブルトラフ（電気配線用ケーブルを収容する保護管）をアサヒ飲料、株式会社アゲオ（本社：埼玉県北足立郡、代表取締役社長：田所 龍雄、以下「アゲオ」）と共同開発し、12月18日（水）に京王電鉄施設内の浜田山駅～高井戸駅間で導入しました。なお、本取り組みはCO₂資源循環モデルの推進を目的として実施します。



《CO₂を食べる自販機（府中）》



《CO₂吸収材を配合したコンクリートケーブルトラフ》

本件のポイント

- ① アサヒ飲料株式会社「CO₂を食べる自販機」を活用したCO₂資源循環モデルの推進は、国内の鉄道会社初の取り組み
- ② ケーブルトラフに使用されるコンクリートの原料に、CO₂吸収後の吸収材を配合することで、本ケーブルトラフの制作過程でのCO₂排出量は従来と比較して274.89kg/m³と9.2%減
- ③ 京王グループでは、「京王グループ理念」で掲げている「環境にやさしく」に基づき、環境に配慮した事業活動を通じて、持続可能な社会の実現に貢献することを目指す。また、地球環境保護を目的とした機器の導入や省エネルギー施策の着実な推進、再生可能エネルギー由来の電力の活用検討等、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進めていく

概要

(1) CO₂を食べる自販機

自販機は周囲の空気を吸い込み、商品の冷却・加温をしているため、空気の通り道である商品取り出し口の下側にCO₂を吸収する特殊材（CO₂吸収材）を設置することで、大気中のCO₂を効率的に吸収します。CO₂吸収性能として1台当たりのCO₂年間吸収量は稼働電力由来のCO₂排出量の最大20%を見込んでおり、スギ（林齢56～60年）に置き換えると約20本分の年間吸収量に相当します。



(2) 吸収したCO₂の活用

株式会社アゲオにて、新宿駅と府中駅のCO₂を食べる自販機から吸収したCO₂吸収材をコンクリートの原料に配合したケーブルトラフを製造し、当社は浜田山駅～高井戸駅間の約165m分のケーブルトラフについて、このタイプに交換しました。

(3) ケーブルトラフを製作する過程で削減したCO₂排出量

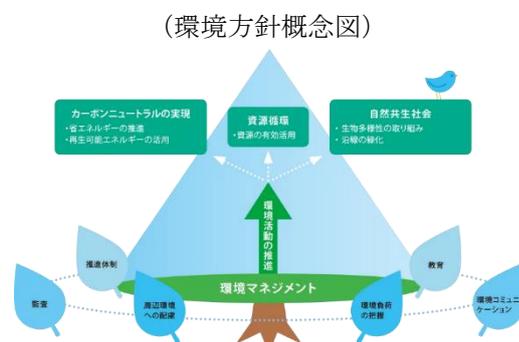
ケーブルトラフに使用されるコンクリートの原料に、CO₂吸収後の吸収材を配合することで、従来のCO₂排出量は302.87kg/m³に対し、本ケーブルトラフの制作過程では従来と比較して9.2%減となる274.89kg/m³となりました。

(4) 今後の展望

当社では本取り組み結果を基に、2025年度以降も順次、CO₂吸収材を配合したケーブルトラフの導入を進める等、環境に配慮した活動を行ってまいります。

【参考1】京王グループ環境基本方針

京王グループでは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づきステークホルダーの皆様のくらしを支える事業を通じて、未来社会に豊かな環境を引き継ぐために、環境に配慮した活動を行います。



【参考2】アサヒグループにおける環境保全への取り組み

アサヒグループでは、グループ理念“Asahi Group Philosophy”の行動指針の一つとして「事業を通じた持続可能な社会への貢献」を掲げています。サステナビリティの重点テーマの一つである「気候変動への対応」においては、CO₂排出量削減の中長期目標「アサヒカーボンゼロ」を設定し、2040年までにCO₂排出量をネットゼロとすることを目指しています。